

2018年 中学校の部 最優秀賞

今考える

米国サンディエゴ みなと学園中学部3年生  
ビッグズ ジョシュア (Biggs Joshua)

8時15分 8月6日1945年 アメリカは、世界初の原子爆弾を広島に落としました。それが使われた時、一瞬で数万人の命が亡くなってしまいました。

僕は、祖父から戦争のことを習いました。祖父の父は戦争中に亡くなり、戦争はいけない事だとよく聞いていたそうです。そして、学校では歴史の授業で太平洋戦争について学びました。それでも戦争の理由とどれくらい当時の人々が辛い経験をしたのかよくわかりませんでした。そんな僕が、この夏8時15分の本と出会いました

この本は、19歳のしんじさんが広島で原爆を体験し、その彼を周りの人々が助ける話です。彼は父が家を解体する準備をするのを助けている最中に、突然原爆を落とされました。火傷と大けがをしていた彼は、家の下から助けられました。その後けがをしたしんじさんと、彼の父は安全な場所を求めています。その時に何度もしんじさんは諦めたかったのですが、父はしんじさんを死なせませんでした。

この本からは、何度も「もうだめだ」と思った時、しんじさんの父は支え励まし、「生きる」と立たせてくれました。彼はたくさんの大切な人を失いながら、そして父からのサポートに感謝し、なんとか生きる力を探せました。辛かったけどこの生きる力を見つけられたのは父のサポートだと思いました。

僕達の年代が全く知らない戦争。ビデオで見る戦争。学校で習う戦争。当時の人々がこれまでに実際どれだけの苦しみを乗り越えてきたのかを考えます。この本を読んで、いつも通りの毎日を突然失い、人生が変わってしまった人々がたくさんいた事、そしてその辛さを知りました。また、そうした人たちが希望を見出し、生き抜いた姿に触れ人としての本当の強さに心を打たれました。今僕は、戦争の苦しみを少し理解する事ができました。

原爆により苦しみをもちたしんじさんの言葉の中に「アメリカを恨むのではない、戦争が自分を苦しめた。」、また作者の言葉の中に「人間が持つより高尚な精神力は、人を恨む機会を人を愛する機会にと変える事が出来るのです。」と、ありました。また、しんじさんは「ティベッツ機長は有能な軍人であり、パイロットだった。与えられた指令に従ってちゃんと使命を遂行したのだ。自分の命の危険を冒して。」と作者に言いました。

僕は、しんじさんが原爆を落としたことについてアメリカ人に対して恨みを持っていなかった事に驚きました。普通だったらしんじさんのような経験をしてきた人だったらアメリカ人を恨むのではないかと思いました。苦しみを乗り越えたしんじさんだから人を恨む機会を人を愛する機会に変える事ができたのだと思います。しんじさんの生きてきた時代

の延長に僕はいます。今もこれからも戦争での苦しむ事のない日々、むごたらしい原爆のない世の中でありつづけてほしいと思います。